

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.799 2020

2020年9月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

核兵器廃絶に向けてユースに望むこと

ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）事務局長 ベアトリス・フィン

広島と長崎は希望の都市です。灰と化したがれきの中からともしびが生まれ、いまや世界の人々の光となりました。世界中で核兵器廃絶を求めるICANの活動でも同じことができるという希望が見えてきました。ICANは核兵器の非人道性を訴える諸国政府と協力して、核兵器を国際法で禁止するキャンペーンを世界的に展開しています。そしてICANは若者主導の運動体です。彼らは、信じられないほど強力な強みを持っています。それは希望、エネルギーです。

希望は力となります。これまで70年以上、グローバルな関係性は恐怖によって振りまわされてきました。権力は世界をコントロールするために核兵器を作り、私たちは当然のごとくそれを恐れてきました。しかし、希望は恐怖の解毒剤です。若者はこの希望の力を活用して核兵器廃絶を成し遂げるでしょう。

若い人たちが核兵器廃絶運動にけるエネルギーにふれ、私は感動しています。何十年の間、核兵器廃絶に取り組んできた人たちの悲観的な言葉も、持ち前のエネルギーでふきとばし、新しい希望、新しいアイデアと方法を行動に移しています。

若者は素晴らしいアイデアを持っています。そのアイデアを世界中にいる、志を同じくする人々と共有するのがソーシャルメディアです。ソーシャルメディアは世界規模でのつながりを可能にします。

長い間、化学兵器を禁止することは不可能だといわれてきました。生物兵器、地雷、クラスター弾も同様です。しかし、ICANの貢献により核兵器禁止条約は成立しました。残念ながら日本は未だ批准していませんが、思いを同じくする多くの人たちがともに声を上げ、変化を求め続けなければかなうことを示したのです。

みなさんは広島物語に、なくてはならない役割を担っています。広島と長崎のような悲劇が二度と起きぬよう、他の都市が被爆地とならないこと、もうヒバクシャが増えないことが私たちのチャレンジなのです。

ヒバクシャのみなさんは体験を、その痛みを、そしてなによりレジリエンスを忘れず大切にすることで世界に貢献しています。高齢になるにつれ、難しくなるでしょう。若者だけがヒバクシャの記憶をつなぎ、次世代に引き渡すことができるのです。みなさんが、ヒバクシャの経験した恐怖の証人の役割を担うのです。

広島YMCA平和学習リモート講演と対話集会
「ICAN事務局長ベアトリスに聞いてみよう」(2020年8月4日開催)より

全国YMCA平和学習共有プロジェクト

～折鶴を通して想いを繋げよう～平和週間プログラム2020

日中韓YMCAユース平和委員 高田望（日本YMCA同盟インターン）

今年はコロナウイルスの影響を考慮し、全国から集めた折鶴を広島の原爆の子像に献納するという例年の平和週間プログラム内容を変更し、オンラインでの平和学習会の実施促進を呼びかけました。私は広島県出身で、小学生の頃から平和学習は何度も行ってきましたが、大学進学に伴い上京をして、地域によって全く平和学習が行われていないという現実を目の当たりにし、衝撃を受けました。だからこそ、この平和学習プロジェクトがそのような状況を改善する一つのきっかけになることも願っています。

2020年4月から発足した第3期ユース平和委員のメンバーはまだ一度も直接集まり話すことはできていません。それでも今できることを考え、7月には韓国の学生YMCAの方々とオンラインで交流会を開き、日本と韓国のユースが協働できる活動について話し合いました。これからは、このような世界とのつながりを作る活動をユース主体で行っていきたくと思っています。



多くの方と作り上げる学童キャンプ 「すべての子どもたちに自然体験を」



『すべての子どもたちへ自然体験を』をテーマにした学童キャンプは今年で5回目を迎えます。家庭環境（貧困やひとり親家庭など）に左右されずに自然体験ができる場として、また夏休みの安心できる居場所、最高の思い出となるようにという願いを込めたキャンプです。このキャンプの参加費は、家庭の収入に応じて参加費の補助が設けられ、その補助は、企業や助成団体を含めた多くの方からの寄附で成り立っています。

キャンプ中は、ワイズメンをはじめシニア世代のボランティアが大活躍です。食事の準備や勉強のサポート、そして時には思い切り甘えられるおじいちゃん・おばあちゃんのように一緒に過ごし、子どもたちに元気をくださいます。学童キャンプは多くの方と共に作り上げているキャンプでもあります。

今年は、十分な感染対策をして自分や相手の健康を守りながら、豊かな自然の中で思い切り遊ぶことが、私たちの大きな願いでした。子どもたちは雨の中、カッパを着てアカハライモリやカエルを探し、陽が射すと走って外へ出て虹を探し、夜は



イモリやカエル探しに夢中!

ゴロンと横になり満天の星空を眺め、流れ星で盛り上がりました。

土曜日に1人きりで学童にいる子がいたり、家で、1人で食事をする子がいたり、家族や友だちと過ごす機会が奪われています。自然の中で、のびのびと好きなことに夢中になって仲間と過ごすキャンプの生活はとても豊かな日々でした。

日常では異なる環境にいる子どもたちが集まるので、一人ひとりの考え方や価値観も違います。子どもたちは自分と違うことに対して悩みながらも受け止め、共に過ごす体験をしています。そして、関わるすべての人が自分への愛情を持ってくれていることに気づきます。この体験がポジティブネットのある豊かな社会を創るはじめの一歩になってくれることを願っています。

名古屋YMCA 遠藤恵美子

熊本豪雨災害支援活動について

活発な梅雨前線の影響で2020年7月3日から熊本県を中心に降り続いた大雨で、河川の氾濫、土砂崩れ、橋の崩落などの被害が多発しました。半日で約1か月分に相当する量の雨が降り、4日夕方には人吉市の球磨川の堤防が決壊。その後、九州北部でも大雨特別警報が発令され、熊本県北地域でも被害が相次ぎました。熊本県で65名が死亡し、豪雨による住宅の被害は県内だけで9000棟以上にのぼっています。

支援活動を展開するにあたり、熊本県ボランティアセンター、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）、YMCA西日本エリアセーフティと意見交換を行い、その後、被災した人吉・球磨、坂本町の視察に出向きました。被災地域では自治体職員が慣れない災害対応に追われています。新型コロナウイルスの感染拡大防止のためボランティアが県内在住者に限定されており、支援経験のあるスタッフの手を借りたいところですが、感染拡大に不安を感じる住民の心情に配慮し、現在は全国YMCAにもボランティア派遣を呼びかけていません。今後、ライフラインの復旧とコロナの状況をふまえながら、人手の確保が厳しい平日に熊本YMCA学院の学生を中心にボランティアを派遣し支援活動を行っています。ワイズメンや他の支援団体とも情報共有をし、連携を図っています。

また、いち早くコストコホールセールジャパンから高圧洗浄機や電動自転車、関連NGOから次亜塩素酸水や土嚢袋などの支援物資の提供を受け、被災地域へと届けました。現地経済を支える意味でも物資をできるだけ県内で調達できるよう、皆様にも募金によってお支えいただければ幸いです。



熊本YMCA 神保勝己 猛暑の中、体調管理をしながら作業に励む専門学校生

熊本豪雨災害支援募金

1. 避難所運営のための後方支援・支援物資の調達と運搬
2. ボランティア派遣とコーディネート
3. 子ども・若者の支援（心のケア・就学支援金）

お問い合わせは熊本YMCA (096-353-6397) まで

アジア・世界のYMCAから

スタッフは無事だがショックはぬぐえない — レバノンYMCA

8月4日、バイルート中心部の港湾地区で大爆発が起こりました。国営メディアによると、爆発により少なくとも100人が死亡、4,000人以上が負傷しています。未だ数百人が行方不明であり、死者数は今後増えると予想されています。

シンエルフィル地区にあるレバノンYMCAの事務所も窓が全て吹き飛ばされました。総主事のイザム・ピシヤラ氏は、「閉館後だったのでスタッフとボランティアはみな無事」であるが「みなショックを受けている。これまでの人生でこんなにひどい目にあったことがない」と話しています。

レバノンYMCAは、爆発が発生した港の近くに倉庫を所有し、地域の社会的に弱い立場の世帯へ配るための薬を保管していました。金属製のドアは完全に破壊しましたが、品物はすべて無傷でした。事務所と施設の修理のために、すぐに人手を確保するのが難しいことは、容易に想像できます。

世界YMCA同盟総主事カルロス・サンヴィー氏はすぐに連帯を表明し、「私たちの思いと祈りは、この恐ろしい爆発で被害を受けたバイルートとレバノンの仲間の上にある。復興再建の過程に、私たちも連帯して寄り添う」というメッセージを送りました。世界中のYMCAの仲間から祈りと支援が寄せられています。



心に傷を負った人々を支援 — ミャンマーYMCA

ミャンマーYMCAは、コロナへの対応として必需品の支援と心理的なサポートを行っています。マスク、衛生キット、飲料水、家庭必需品をコミュニティの人々へ届ける一方、コロナ禍でさまざまな問題を抱え、心に傷を負った人々を癒



し、元の生活に戻れるように支援する活動を行っています。ひとつは、宗教指導者たちがメディアを通じて励ましと支援のメッセージを送り、コミュニティの宗教間対話を促進し、対立が起こらないようにすること。もうひとつは、スタッフやボランティアが直接家を訪問し、励まし、支援することです。YMCAの176回目の記念日には、グローバルフォトチャレンジに参加し、YMCAと人々のためにステイホームをしながら共に祈りを捧げました。